

## 科学研究費助成事業（科学研究費補助金）研究成果報告書

平成 24 年 5 月 18 日現在

機関番号： 10101  
 研究種目： 基盤研究（B）  
 研究期間： 2009～2011  
 課題番号： 21320098  
 研究課題名（和文） 大学の外国語教育における TA 研修・PFF システムの研究と開発

研究課題名（英文） Research and development of Teaching Assistant training system and Preparing Future Faculty programs in university foreign language education

研究代表者

安藤 厚（Ando Atsushi）

北海道大学・名誉教授

研究者番号：20012510

研究成果の概要（和文）：北米、アジア、ヨーロッパの大学における教員研修(FD)・TA 研修・PFF（将来の大学教員養成）システムを視察し、国際シンポジウム（2009年7月）、国際ワークショップ（2010年3月、7月、2011年7-8月）を実施して、米国型の TA 研修・PFF システムが日本の大学院教育にも応用可能なこと、UC バークリーモデルの英語による PFF ワークショップが日本の（留学生を含む）大学院生の期待に応え、彼らが将来大学教員となるために必要な新しい道を示すことができることを確認した。

研究成果の概要（英文）：We visited the universities in North America, Asia and Europe, made research on their Faculty Development, Teaching Assistant Training and Preparing Future Faculty system, and practiced International Symposium on Professional Development (July 2009) and International PFF Workshops (March & July 2010, July–August 2011). As a result we found that the American type of TA training system and PFF programs can be applied to Japanese graduate education, and the UC Berkeley's PFF workshop in English meet the demands and expectations of Japanese and foreign graduate students in Japan, and this program can show them the new road to become a good faculty in the future.

交付決定額

（金額単位：円）

	直接経費	間接経費	合計
2009年度	4,800,000	1,440,000	6,240,000
2010年度	4,900,000	1,470,000	6,370,000
2011年度	2,900,000	870,000	3,770,000
年度			
年度			
総計	12,600,000	3,780,000	16,380,000

研究分野： 高等教育, ロシア文学, 比較文学

科研費の分科・細目： 言語学・外国語教育

キーワード： TA 研修、Preparing Future Faculty、ティーチング指導、ライティング指導、大学院生の教育研究能力向上、外国語教育、教育研修、FD

## 1. 研究開始当初の背景

### (1) TA 研修・PFF の日本モデルの研究と開発

#### ①北海道大学の取組

北大高等教育機能開発総合センターではこれまで 10 年以上にわたり、ティーチングの改善のため、ワークショップ型の FD 研修、初任者研修、TA 研修を実施し、着実に成果を上げてきた。

#### ③海外の研究動向

北米の大学では、教員研修や TA 研修・PFF プログラムは、専門組織によりきめ細かな指導が行われており、教員の採用においては応募者の研究業績・研究能力以外に教育経験・教育能力も考慮されるため、PFF プログラムは大学院生のアカデミックキャリア形成支援の一環として重視されている。

北米の学界ではこの 5-10 年で理論・実践両面で多くの成果があり (The Re-envisioning the Ph.D. project 2000-2003, Jody D. Nyquist, University of Washington など)、これらを調査・研究し、日本の実情にあった、多くの大学で利用できるモデルをつくりだすことは、日本の大学院教育全体の発展にとって大きな意義がある。

### (2) 理系基礎教育の経験を外国語教育に活かす TA 研修・PFF システムの研究と開発

北大ではカリフォルニア大学バークリー校 (UCB) など北米の総合研究大学の科学教育授業と TA 研修をモデルとして、北大の実情にあった全学教育・理系基礎科目の新しい授業内容と研修システムを開発してきた。

理系基礎科目の能動的授業や情報学の TA 研修システムは 2006 年度新教育課程で大きな成果を上げたが、文系の教育、特に外国語教育にもこの経験を生かした新しいシステムの導入が必要である。

## 2. 研究の目的

北大では授業アンケートでも外国語授業の学生による評価は一般にきわめて高いが、クラス編成、成績評価基準、一部教員の授業での行動などについて強い不満がある。外国語教育の改善策は多岐にわたり、教育目標、クラス編成、成績評価基準、授業での教員のモラルとマナー、教材などの問題は別に研究が必要である。

本研究では (日本人及び留学生) 大学院生及び PD のアカデミックキャリアの形成に焦点をあて、3 年の研究期間の中で、彼らの TA あるいは非常勤講師としての外国語教育の能力向上のための研修について、日本の大学

の実情にあったモデルをつくりだすことを目標とする。

## 3. 研究の方法

本研究では、北米の大学で行われている「大学教員を目指す大学院生に対するティーチング教育」(PFF)、特に外国語教育における TA 研修と PFF プログラムの実施内容を調査・分析し、その成果をもとに日本の大学の実情にあったモデルを構築することを旨として、

- (1) 北米の大学における TA 研修・PFF システムの調査・研究、
- (2) 北大における外国語教育 TA 研修・PFF システムの実情と需要の調査、
- (3) 大学院生訓練の場としての外国語 TA 研修と PFF プログラムの開発、
- (4) 非常勤講師 TOR のモデル化、
- (5) 他大学との連携による外国語集中訓練研修を試みる。

## 4. 研究成果

海外の大学の視察や国際シンポジウム (2009 年 7 月) の討論で、(1) 北米 (米国、カナダ) でも、東アジア (中国、韓国) でも、大規模な教員研修が年間を通じて組織的・計画的・体系的に実施されており、(2) 北米では、大学院生 TA を重要な教育スタッフと位置づけ、彼らに将来の大学教員あるいはその他の専門職として職責を果たすのに必要な適切な研修を行うことに力を入れていることなどが明らかになった。

具体的には、(1) ワシントン大学ナイキスト名誉教授によるマイクロティーチング・ワークショップ (2009 年 7 月)、(2) カリフォルニア大学バークリー校の二人の講師による PFF ワークショップ (2010 年 3 月、7 月、2011 年 7-8 月) を北大において他大学学生も加わって試行し、①ティーチング指導②ライティング指導③英語コミュニケーションの面で大きな成果を上げた。

## 5. 主な発表論文等

(研究代表者、研究分担者及び連携研究者には下線)

[雑誌論文] (計 8 件)

- ① 河内真美, 北海道大学「大学院生のための大学教員養成講座」報告, 高等教育ジャーナル——高等教育と生涯学習——, 19, 2012, 65-76, 査読無。
- ② 瀬名波栄潤, Writing Lab 試行運営: 取組・成果・展望, 高等教育ジャーナル——高等教育と生涯学習——, 18, 2011,

11-18, 査読無.

- ③ Toshiyuki Hosokawa, TA training and PFF Program at Hokkaido University, 高等教育ジャーナル——高等教育と生涯学習——, 18, 2011, 39-42, 査読無.
- ④ 宇田川拓雄, 大学教育の「国産化」と「国際化」: 日本, タイ国, 台湾, 高等教育ジャーナル——高等教育と生涯学習——, 18, 2011, 97-101, 査読無.
- ⑤ 安藤厚, 細川敏幸, 西森敏之, 小笠原正明, 他 5 名, 北海道大学教育倫理綱領および科学者の行動規範について, 高等教育ジャーナル——高等教育と生涯学習——, 18, 2011, 155-164, 査読無.
- ⑥ 宇田川拓雄, 小規模大学における英語による授業の実施可能性, 北海道教育大学紀要(人文科学・社会科学編), 22, 313, 2011, 49-59, 査読無.

<http://s-ir.sap.hokkyodai.ac.jp/dspace/bitstream/123456789/2308/1/61-2-zinbun-04.pdf>

- ⑦ 山田邦雅, 細川敏幸, 西森敏之, 安藤厚, 北海道大学における TA を評価したアンケート調査の分析, 高等教育ジャーナル——高等教育と生涯学習——, 17, 2010, 37-44, 査読有.

[http://eprints.lib.hokudai.ac.jp/dspace/bitstream/2115/47990/1/JHELL17\\_04.pdf](http://eprints.lib.hokudai.ac.jp/dspace/bitstream/2115/47990/1/JHELL17_04.pdf)

- ⑧ 山田邦雅, 細川敏幸, 西森敏之, 安藤厚, 北海道大学専門科目担当 TA に関するアンケート調査の分析, 高等教育ジャーナル——高等教育と生涯学習——, 査読有, 17, 2010, 45-62.

[http://eprints.lib.hokudai.ac.jp/dspace/bitstream/2115/47991/1/JHELL17\\_05.pdf](http://eprints.lib.hokudai.ac.jp/dspace/bitstream/2115/47991/1/JHELL17_05.pdf)

[学会発表] (計 2 件)

- ① 宇田川拓雄, UC バークレー校の大学教員養成プログラム, 大学教育学会, 2009 年 4 月 27 日, 立教大学.
- ② 宇田川拓雄, 大学教授職の変容——カリフォルニア大学バークレー校の大学教員養成研修コース——, 日本教育社会学会, 2009 年 9 月 12 日, 早稲田大学.

[図書] (計 6 件)

- ① 安藤厚, 西森敏之, 細川敏幸, 瀬名波栄潤, 北海道大学高等教育推進機構, カリフォルニア大学バークレー校の講師による「大学院生のための大学教員養成(PFF)講座: ティーチングとライティングの基礎」(2009, 2010, 2011 年度)評価報告書, 2012, 144.

<http://socyo.high.hokudai.ac.jp/UCBPFReport.pdf>

- ② 細川敏幸, 西森敏之, 山岸みどり, 山田邦雅編, 北海道大学高等教育推進機構, 北海道大学 英語による授業サポートマニュアル(初版), 2012, 76.

- ③ 安藤厚, 細川敏幸, 山岸みどり, 小笠原正明編著, 北海道大学出版会, プロフェッショナル・ディベロップメント——大学教員・TA 研修の国際比較, 2012, 250.

- ④ Center for Research and Development in Higher Education, Hokkaido University, International Symposium on Professional Development in Higher Education (Proceedings). Program B: Aspects of Professional Development (Hokkaido University, July 30-31, 2009), 2010, 192.

<http://socyo.high.hokudai.ac.jp/sympo2009.pdf>

- ⑤ 細川敏幸, 西森敏之, 安藤厚編, 北海道大学高等教育推進機構・教育改革室, 「次世代FDの研究」報告書, 2010, 178.

<http://socyo.high.hokudai.ac.jp/jisedai.pdf>

- ⑥ 西森敏之編, 北海道大学高等教育推進機構, 北海道大学・全学教育ティーチング・アシスタント・マニュアル(改訂第 3 版), 2010, 188.

[産業財産権]

○出願状況 (計 0 件)

名称:  
発明者:  
権利者:  
種類:  
番号:  
出願年月日:  
国内外の別:

○取得状況 (計 0 件)

名称：  
発明者：  
権利者：  
種類：  
番号：  
取得年月日：  
国内外の別：

[その他]  
ホームページ等

## 6. 研究組織

### (1) 研究代表者

安藤 厚 (Ando Atsushi)  
北海道大学・名誉教授  
研究者番号：20012510

### (2) 研究分担者

西森 敏之 (Nishimori Toshiyuki)  
北海道大学・高等教育推進機構・特任教授  
研究者番号：50004487

細川 敏幸 (Hosokawa Toshiyuki)  
北海道大学・高等教育推進機構・教授  
研究者番号：00157025

山岸 みどり (Yamagishi Midori)  
北海道大学・高等教育推進機構・教授  
研究者番号：20211625

三上 直之 (Mikami Naoyuki)  
北海道大学・高等教育推進機構・准教授  
研究者番号：00422014

瀬名波 栄潤 (Senaha Eijun)  
北海道大学・大学院文学研究科・准教授  
研究者番号：10281768

宇田川 拓雄 (Utagawa Takuo)  
北海道教育大学・教育学部・教授  
研究者番号：30142764

大野 公裕 (Ohno Kimihiro)  
北海道大学・大学院 メディア・コミュニケーション研究院・教授  
研究者番号：10160574

### (3) 連携研究者

山田 邦雅 (Yamada Kunimasa)  
北海道大学・高等教育推進機構・特任准教授  
研究者番号：30399802

小笠原 正明 (Ogasawara, Masaaki)  
北海道大学・名誉教授

研究者番号：60001343

### (4) 研究協力者

河内 真美 (Kawachi Mami)  
筑波大学・大学院人間総合科学研究科博士課程